

モロッコ政府防災関係者、ユネスコ関係者と意見交換を行いました (2024/7/10)

テーマ：地震防災

場 所：東北大学工学研究科人間環境系教育研究棟

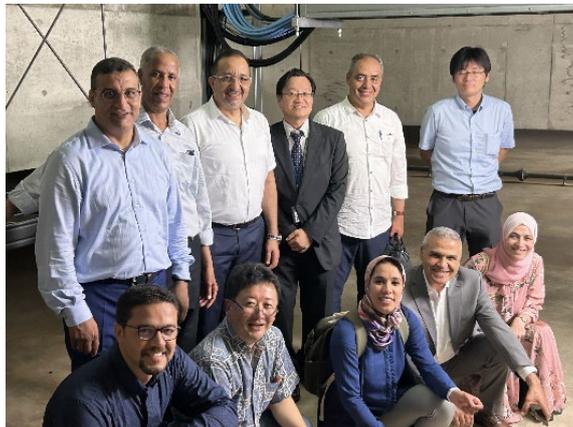
2023年9月8日にモロッコにおいてマグニチュード6.8の地震が発生し、多くの家屋や建物が倒壊して3000人近くの死者を出しました。日本外務省が令和5年度補正予算より経費を拠出し、UNESCOが被災地支援プロジェクトを実施しています。このプロジェクトの一環として、防災行政や地震観測、耐震技術について意見交換を行うため、モロッコ政府防災関係者9名が来日しました。

訪問団は7月9日に茨城県つくば市の国立研究開発法人建築研究所と同防災科学技術研究所を訪問し、翌10日に東北大学を来訪されました。東北大学における意見交換会には、災害科学国際研究所副所長小野裕一教授および地震工学研究分野の五十子幸樹教授と榎田竜太准教授が参加しました。

意見交換会では、UNESCO Office for the MaghrebのNational Professional OfficerであるAlaoui Mohamed氏と五十子教授による開会挨拶の後、2011年の東日本大震災において、何が起こったのか、被害の状況はどのようなものであったかをご理解頂くために、映画「大津波」をご覧頂きました。続いて、2011年東日本大震災で被災し免震構造物として建て替えられた工学研究科人間環境系教育研究棟の免震ピットを見学しました。この建物には免震装置として、天然ゴム系積層ゴム支承、鉛プラグ入り積層ゴム支承、クロスリニアベアリング、オイルダンパーなどの装置が用いられています。免震ピット見学では、これら装置の施工時の取り付け方法、維持管理、コストなどに関しての活発な質疑応答が行われました。

続いて榎田准教授より、建物基礎部のモルタル表面と、上部建物鉄骨の間に黒煙潤滑を用いた簡易滑り免震システムに関する最新の研究について、紹介がなされました。免震ピットで見学した免震装置は高性能ではあるものの高コストであるため日本以外ではあまり普及していませんが、黒煙潤滑による簡易免震は低コスト化により広く普及させることを目指したもので、モロッコ政府関係者も強い関心を示していました。

最後に、今後の継続的な協力などについて意見交換を行った後、小野副所長の閉会の言葉をもって解散しました。



工学研究科人間環境系教育研究棟の免震ピットにて